

金融犯罪撲滅のための人工知能を活用した 名称スクリーニング

BABEL STREET ANALYTICS

金融機関（FI）は、マネーロンダリング防止（AML）のための制裁対象者スクリーニング、顧客デューデリジェンス（CDD）、取引監視といった規制遵守の要件と、顧客オンボーディングの効率化および顧客体験向上とのバランスを取り続けなければなりません。

金融機関のコンプライアンスプロセスでは、ネームスクリーニングが1日に何百万回も行われています。しかし、名称は非常に可変的のもので、なかなか一筋縄ではいかないものです。金融機関が人や組織の名称を照合しようとする場合、スペルミス、ニックネーム、略語、音訳、文化による違いなどが、すべて重大な困難を引き起こします。

手作業のプロセスや時代遅れのルールベースのスクリーニング技術では、すべての取引に遅延が生じ、金融機関は規制当局による検査や違反のリスクにさらされます。多言語のテキストを扱う場合は、さらに複雑です。例えば、照合前に実施される翻訳にのみ依拠するシステムでは、アラビア語の名前「كَارِيْم (カリム)」を字義どおりに「寛容」と訳してしまいます。同一言語内だけでなく、言語横断的にも名前を照合するAIベースのシステムは、こうした落とし穴を理解して回避することができます。

MatchとText Analyticsで構成されるBabel Street Analyticsは、人工知能を適用してCDDタスクを自動化します。高いカスタマイズ性を誇るこの名称照合エンジンは、現実世界のトレーニングデータとAIの専門技術をベースに、20種類以上の照合スキームを通じて各候補を効率的に処理し、最高品質の結果を生成します。

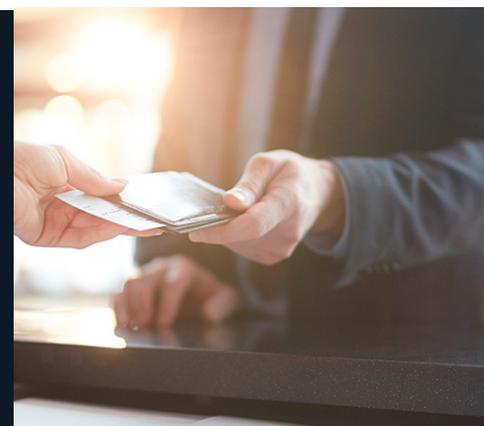
Matchを社内システムに統合した金融機関では、誤検出や検出漏れを大幅に減少させることができます。その結果、人力での調査にかかる時間が削減され、リスクの高い人物や組織の検出漏れの可能性が最小限に抑えられ、コンプライアンスプロセスが合理化されます。

何が危険にさらされているのか

スクリーニング手法が不正確だと、誤検出によってコンプライアンスチームが悩殺され、実際の脅威に対するアラートがわかりにくくなったり、見逃されたりします。制裁対象者と取引を行ってしまうと、規制当局から罰金を科せられる可能性があります。また、それに伴う評判の低下により株価の急落や信頼の喪失を招き、さらに大きな経済的損害を引き起こされる危険があります。

金融機関は、常にコンプライアンス予算とリスク管理の

手作業によるプロセスや、時代に即していないルールベースのスクリーニング技術では、すべての取引が遅延し、FIは規制当局による調査や違反のリスクにさらされます。





バランスを取っています。多くの金融機関では、規制当局と経営幹部の両者から求められるコンプライアンス要件が増大する一方、そのための予算は停滞し、無理が生じている状況です。金融機関は、デューデリジェンスのための高度なAI主導システムに投資することで、コンプライアンスプロセスの効率を高めることができます。Babel Street Analyticsなら、業務の負担を増やすことなく、制裁措置、重要な公的地位を有する者（PEP）、監視対象リスト、ネガティブニュースについてより徹底的なスクリーニングを実施し、リスクプロファイルを拡大することが可能です。

世界中の金融機関からの信頼

AIと自然言語処理（NLP）の急速な進歩により、言語横断的なセマンティック（意味）ベースの検索が可能になり、またニュース記事を犯罪収益の源泉となる前提犯罪に関するものに絞り込めるようになったことで、人の手によるCDDの作業を劇的に削減することが可能になりました。Babel Street Analyticsは現在、世界中の金融機関で利用されており、検索エンジンやアプリケーションとの連携が可能で、既存のシステムを置き換える必要はありません。

利点としては、以下のような点が挙げられます。

正確でメンテナンスしやすく、名称照合の根拠が説明可能 — コンプライアンスの義務や金融機関の各種ポリシーは進化していきますが、Matchのアルゴリズムは柔軟かつ設定の変更が可能であり、個人や組織の名称、日付、住所の多様性や曖昧さに対処できます。説明可能なAIによる照合スコアの計算は透明化されており、監査にも耐えるものです。Matchは、英語とその他

20以上の言語（日本語、中国語、韓国語、ロシア語、アラビア語、など）の本来の文字で記載された名称を処理します。誤検出が最小限に抑えられるため、アラートの数が減り、本当に注意が必要なアラートに集中することができます。

最終受益者（UBO）の迅速な追跡を実現 — Text

Analyticsは、ニュースソース、企業の提出書類、公的記録など、UBOの調査に必要な種類のデータを処理します。パターンマッチング、固有表現リスト、統計モデル（深層学習を含む）といった複数のアプローチを駆使して、多言語テキストから人物、場所、組織などの名称を抽出します。

ネガティブニュースのスクリーニングにかかる人的作業を軽減 — Text

Analyticsは、人による静的キーワードの検索よりも優れており、NLP技術を利用して、対象となる個人や組織に関する記事のみを返します。さらに、記事をフィルタリングして、前提犯罪に関連する単語やフレーズを含む記事のみに絞り込み、それらの単語やフレーズの意味を基準に複数の言語で検索を行います。イベント抽出機能を活用して、記事で言及されているだけでなく、その人物が違反行為者となっている記事のみを返します。NLPの活用により、人はデータの検索よりも、重要度の高いデータのレビューに集中することが可能となります。

規制をめぐる状況は複雑で常に変化しているため、コンプライアンスの実現は不可能に思えるかもしれませんが、Babel Street Analyticsはそれを可能にします。

Babel Streetは、信頼あるテクノロジーパートナーとして、世界最先端のアイデンティティインテリジェンスとリスク対策を実現します。Babel Street Insightsプラットフォームは、リスクと信頼のギャップを埋める高度なAIとデータ分析ソリューションを提供します。

Babel Streetは、言語を問わずにすぐに分析に使える最高レベルのデータを提供し、プロアクティブなリスク特定、多面的なインサイトの取得、高速自動処理、既存システムとのシームレスな連携を実現します。政府機関や企業が、身元の特特定やリスクに関するハイリスクな業務を戦略的優位性に転換できるよう支援します。

詳しくは、babelstreet.jp をご覧ください。

